

## 豪州主催WTO非公式閣僚会合 (結果概要)

平成25年5月30日  
経済局国際貿易課

5月30日、パリのOECD本部内において、豪州主催WTO非公式閣僚会合が開催されたところ、概要以下のとおり。我が国からは鈴木外務副大臣及び林農林水産大臣が出席した。

### 1 出席者（25か国・地域及びWTOから出席）

- ・豪州（議長）：エマーソン貿易・競争担当大臣
- ・WTO：ラミー事務局長、バシールー一般理事会議長他
- ・米国：パンク通商代表補兼WTO担当大使
- ・EU：デ・グフト貿易担当欧州委員
- ・中国：俞建華（ユ・ジエンファ）商務部部長助理
- ・インド：シャルマ商工大臣
- ・上記の他、アルゼンチン、ブラジル、カナダ、インドネシア、韓国、メキシコ、ニュージーランド、ノルウェー、南アフリカ、スイス、ネパール等から貿易担当閣僚等が出席。

### 2 議論の概要

- (1) 今次会合では、本年12月にインドネシア・バリにおいて開催される第9回WTO閣僚会議（MC9）での成果の実現に向けて、交渉の進捗に関する現状評価及び今後の取り進め方が議論の焦点となった。
- (2) MC9の成果については、①貿易円滑化（税関手続の改善等）、②農業分野の一部、③開発の3本柱を目指し、各分野の交渉に若干の進展は見られるものの、成果の実現のために十分な進捗が得られていないことへの懸念が示された。
- (3) 多くの閣僚が、膠着状態が続く現状を打開すべきであると述べ、来週以降、上記3分野について残された争点を解決すべく、交渉を加速することで一致を見た。
- (4) 我が国からは、ポイント以下のとおり発言した。
  - ・鈴木外務副大臣：夏前までに成果の見通しをつけるべく、各国が自説に固執せず最大限の柔軟性を発揮するよう呼びかけ。ITA（情報技術協定）の品目拡大の重要性に言及。
  - ・林農林水産大臣：「多様な農業の共存」が可能となる貿易ルールの必要性を強調。MC9における農業分野の成果について、現実的な解決策を探ることの重要性に言及。

(了)